

## 2. RQ フレックスの使い方

### (1) 測定

購入直後の RQ フレックスプラス (RQflex plus 10) のパッケージには、以下のものが入っている。

- ・ RQ フレックス本体
- ・ 単 4 乾電池 4 本
- ・ セル用アダプター
- ・ エンプティセル (10 個)
- ・ リキャリブレーションセット
- ・ 取り扱い説明書 (英語版、日本語版、リフレクトクアートの説明)



使用するにあたって、まず乾電池を本体にセットする (平成 19 年度購入品には電圧の高い乾電池は使用しないようにという注意書きが入っている)。

### キャリブレーション

正確な値を表示させるためには、使用前にキャリブレーションを行う。電池交換後には必ず行う。キャリブレーション用のキットは本体に同梱されている。



## 手順

本体の電源を入れる



キャリブレーション用のバーコードを入れる



表示が CAL になる



キャリブレーション用試験紙を挟む



START ボタンを押す



CAL 表示が消えたらキャリブレーション完了



キャリブレーション用試験紙、バーコードを抜く

## 通常測定

試薬、測定待ち時間等は測定対象により異なるため、詳細は各項目のマニュアルを参照すること。ここでは、試験紙を使う場合の測定の大まかな流れと注意事項のみを記す。セルを用いる場合には、セルを用いるカリウム、マグネシウムのマニュアルに使い方を記す。

試験紙タイプの測定では、液体の試料 5mL に対して試薬を加え混合した後、試験紙を入れる場合が多い。一定時間反応させた後、RQ フレックス本体の測定部位に試験紙を差し込み、表示される数値を読み取る。

## 手順

本体の ON/OFF ボタンを押し電源を入れる



リフレクトクアント付属のバーコードを入れる  
3桁の数値が表示される



START ボタンを押し測定スタンバイにする  
測定待ち時間（秒・測定対象により異なる）が  
表示される



マニュアルの指示に従い試料に試薬を入れ、蓋をして振り混ぜる（入  
れずに測定するものもある）



試験紙容器から試験紙を1枚すばやく取り出し、容器の蓋を閉める



試験紙を試料に浸すと同時に START  
ボタンを押す



測定待ち時間が減り始める  
試験紙を浸す時間はマニュアルの指示に従うこと



試験紙を取り出したらティッシュペーパー等に余分な液を吸わせる



表示が 10sec（残り 10 秒）く  
らいになったら、試験紙を測定  
部位に挟む



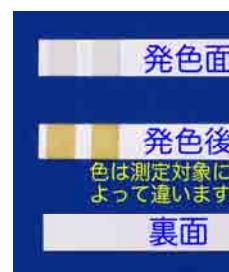
表示が 5sec（残り 5 秒）になったらアラームが連続で  
鳴り続ける

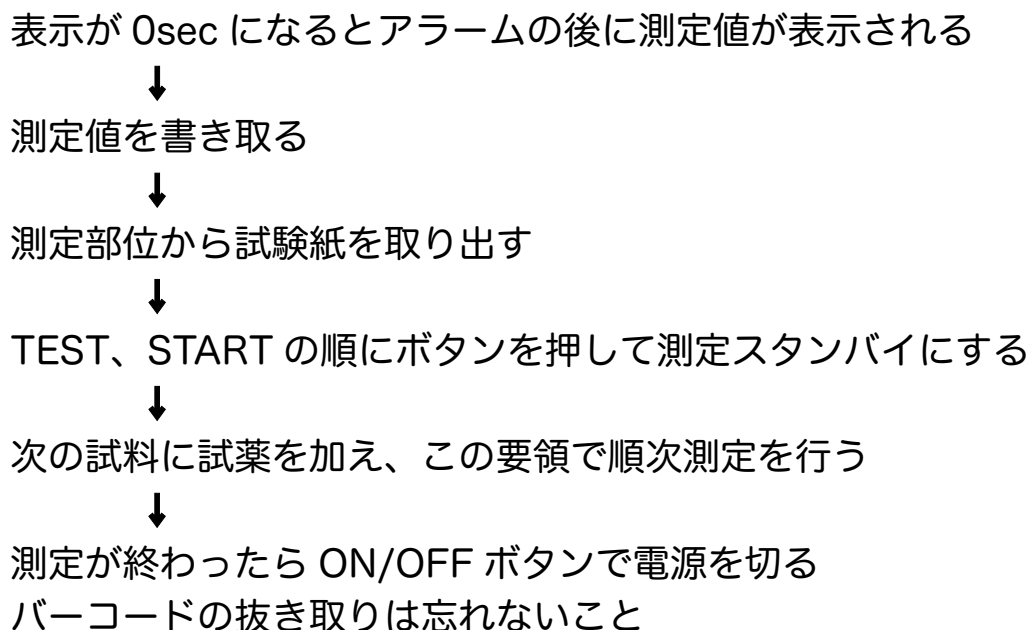


・試験紙の入っていた  
箱に付いているバーコ  
ードを必ず使う（注1）  
・数値が表示されたら、  
すぐにバーコードを抜  
き取って良い

・きちんと測定待ち時間が表示  
されているか確認してから試  
験紙を浸す（注2）

・プラスチックに紙が  
付いている発色面を左  
側にして挟む





(注1) 同じ測定項目のリフレクトクアントでも、製造ロット等でバーコードの数字が違う場合があるので、必ず同じ箱から取り出した試験紙とバーコードの組み合わせを守る。試験紙の缶に表示された8桁の数字の最初の3桁と、バーコードの数字は同じはずである。

(注2) RQ フレックスは、2分間操作が全く無いと自動的に電源がOFFになる。試験紙を浸してから気付いても遅いので、先に確認しておく。電源がOFFになっていた場合、ON/OFF ボタンを押して電源を入れ、表示される3桁の数値を確認してからSTART ボタンを押し、測定待ち時間を表示させる。

## 連続測定

測定待ち時間は長いものでは480秒(8分間)になる。その間、ただ待つだけでは効率が悪いので、ストップウォッチを準備して連続的に測定を行う。一人でも可能だが、二人組だとより効率的に行うことができる。

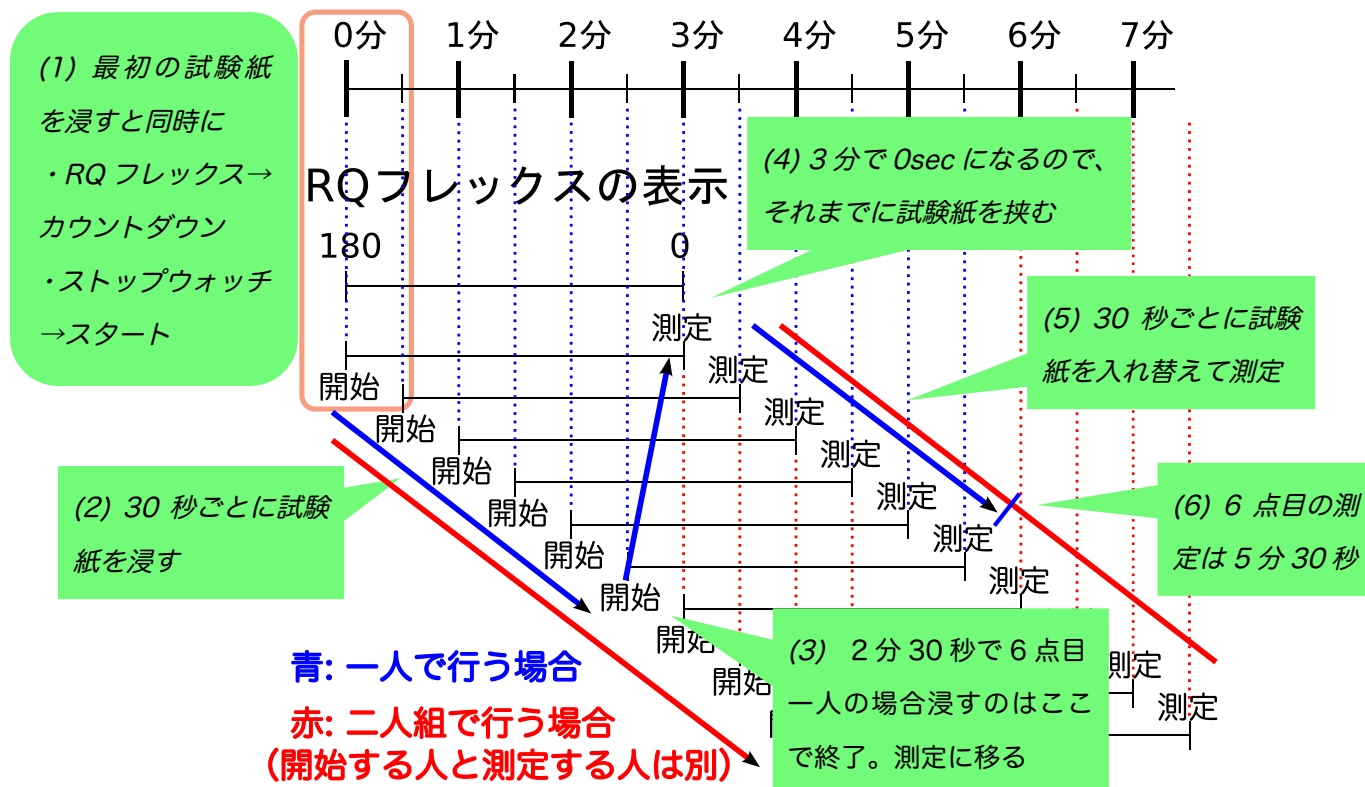
表示が 0sec になり測定値が表示された後、**TEST ボタンを押さず**に再度 START ボタンを押すと、押した時の測定値が表示される。従って、あらかじめ数十秒おきに試験紙を浸しておけば、0sec になって一つ目の測定が終わった後、試験紙を入れ替え、ストップウォッチで時間を確認しながら START ボタンを押すことにより、連続的に測定を行うことができる。

測定待ち時間、試薬の扱いは測定項目ごとに異なるので、手順の詳細はそれぞれの項目のマニュアルを参照のこと。

ここでは、加える試薬は2種類（ともに液体、試薬1を入れた後は放置して構わないが、試薬2を入れた直後に試験紙を2秒間浸す）、測定待ち時間が180秒の場合で例を示す。

試薬を入れて混ぜ、試験紙を容器から取り出して液に浸す、という操作には30秒程度かかるため、測定は30秒ごとに行う。従って、この場合一人で連続的に測定できる試料点数は6点である。

### ストップウォッチの表示



## 手順

連続測定する全ての試料に試薬 1 を入れ、蓋をして振り混ぜる



本体の ON/OFF ボタンを押し電源を入れる



リフレクトクアント付属のバーコードを入れる  
3 桁の数値が表示される

・数値が表示されたら、  
すぐにバーコードを抜き  
き取って良い



START ボタンを押し測定スタンバイにする  
測定待ち時間 (180 秒) が表示される



1 つ目の試料に試薬 2 を入れ、蓋をして振り混ぜる



試験紙容器から試験紙を 1 枚すばやく取り出し、容器の蓋を閉める



試験紙を試料に浸すと同時に START ボタン  
ストップウォッチのボタンを押す



測定待ち時間が減り始める



2 秒後に試験紙を取り出す



ティッシュペーパー等に余分な液を吸わせる  
試験紙は別のティッシュペーパー等の上に置く



次の試料に試薬 2 を入れ、蓋をして振り混ぜる



試験紙容器から試験紙を 1 枚すばやく取り出し、容器の蓋を閉める



ストップウォッチの表示が 30 秒になったら試験紙を試料に浸す

↓  
2 秒後に試験紙を取り出す  
↓  
ティッシュペーパー等に余分な液を吸わせる  
試験紙は別のティッシュペーパー等の上に置く  
↓  
次の試料に試薬 2 を入れ、蓋をして振り混ぜる

・順番が分からなくな  
らないように注意して  
並べる

・30 秒ごとのこの操作を 6 点目の試料 (150 秒=2 分 30 秒) まで行う

↓  
RQ フレックスの表示が 10sec (残り 10 秒) くらいになったら  
最初の試料の試験紙を測定部位に挟む  
↓  
RQ フレックスの表示が 5sec (残り 5 秒) になったら  
アラームが連続で鳴り続ける  
↓  
RQ フレックス表示が 0sec になるとアラームの後に測定値が表示さ  
れる。この時、ストップウォッチの表示は 3 分  
↓  
測定値を書き取る  
↓  
測定部位から試験紙を取り出し、次の試料の試験紙を挟む  
↓  
ストップウォッチの表示が 3 分 30 秒になったら  
START ボタンを押す  
↓  
測定値が表示されるので、書き取る  
↓  
測定部位から試験紙を取り出し、次の試料の試験紙を挟む  
↓

・間違えて TEST ・  
ON/OFF ボタンを押さ  
ないように気をつける

ストップウォッチの表示が4分になったら  
START ボタンを押す



測定値が表示されるので書き取る



測定部位から試験紙を取り出し、次の試料の試験紙を挟む

・間違えて TEST ・  
ON/OFF ボタンを押さ  
ないように気をつける

・30秒ごとのこの操作を6点目の試料(150+180秒=5分30秒)  
まで行う

・二人組で行えば一人が30秒ごとに試料に試験紙を浸し、もう一人  
が測定すれば良いので、より多点数を連続測定できる。

・慣れない間は測定間隔を長くした方が良い。

・何分何秒にどの操作を行うか、あらかじめ一覧を作っておいた方  
が混乱せずに行うことができる。



最初の試験紙を入れる時の様子(測定待ち時間が60秒の場合)。